

「協働による地域ゼロカーボン戦略を考える 大学等コアリション・地域ゼロカーボンワーキンググループ
シンポジウム」パネルディスカッションでの質問のうち、未回答部分への回答

先日はシンポジウムをご視聴いただきましてありがとうございます。

パネルディスカッションの間に質問ボックスにお送りいただいた質問で、時間内にお答えできなかったものについて、登壇者からご回答いただきました。下記に紹介いたします。

(いただいたご質問は入力時のままの記載としています。)

<質問①> 超長期的に見れば、再エネ 100 は可能か必要だと思いますが、ベースロード電源の問題など多岐にわたる課題が山積しておりますので、再エネ 100 を実現するためのロードマップはあるのでしょうか。

<再エネ 100 宣言 RE Action 金子様からの回答> ご存じのように、再エネ 100 を達成するためにはソーラー発電だけではダメです。省エネも組み合わせ、風力発電も同じように増やし、蓄電や、電力調整・予測技術も革新的なものがが必要です。これらの組み合わせで、ようやく 100%になるのだと思います。

2030 年までは既存の技術で汎用化されているものは、最大限に増やすことが絶対に必要でしょう。

多くの環境団体や世界的な調査機関などがネットゼロへのロードマップを示していますが日本は遅れながらもこれについていく必要があります。有名なものを以下に紹介します。

IEA Net Zero by 2050 A Roadmap for the Global Energy Sector

<https://www.iea.org/reports/net-zero-by-2050>

<質問②> 再エネ導入に際して、防災や価格、脱炭素以外の環境や社会問題への配慮などの問題もあるかと思いますが、比較分析されたものを分かりやすく提示するようなことも考えられていますか。再エネ機器や施設の生産段階や廃棄においてもリサイクルへの志向は研究されていますか。

<再エネ 100 宣言 RE Action 金子様からの回答> はい、再エネも社会問題（健康問題や土地紛争、廃棄等）に対して目をつぶるようなことがあると決して増えていかないと思っています。

まだまだ実際の実測データなどは少ないとおもいますが、廃棄物や生産時のエネルギーの問題に対しては LCA 的なアプローチがされており、その結果はもっとオープンにしないといけないと思っています。

先日ソーラーパネルの廃棄処理についてインタビューしました。よろしければご覧いただき感想を送ってください。よろしく願いいたします。

再エネ 100 宣言 RE Action インタビューNo19 加山興業株式会社 2022.3.11

<https://youtu.be/ObdQqkmycoM>